「なぜ愚かに見える福音を語るのか」コリント人への手紙第一 1 章 18-25 節

2025.5.11　礼拝

序論）先週の振り返り

先週は、教会分裂という問題を抱えていたコリントの教会に対して、彼らの分裂の原因、パウロの願い、そして、教会がどのように一致していくのかを確認しました。教会が分裂する原因は、キリストではなく人に目を向けてしまうからです。そして、パウロをはじめとした伝道者の願いは人々が自分ではなくキリストに結びつくことです。だから、**パウロは教会が一致するために第一にキリストの名によって歩むこと、第二に同じ信仰告白をすること、第三に仲間割れを避けること、そして、第四にキリストにあって心と理性を一つにする**ことを勧めていました。

そのような話の中で、パウロは 17 節でこのように語っています。

1:17 キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに宣べ伝えるためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。

パウロは、福音を「ことばの知恵によらずに」語っていました。律法の専門家であり、エリート中のエリートであるパウロがあえてこの世の知恵を使わずに福音宣教をするのが、自分の使命だというのです。

なぜでしょうか？　それはこの世の知恵を用いずにシンプルにキリストの十字架を伝えることばの中にこそ、神の力が働くことをパウロが知っていたからです。

１）十字架のことばの真理

今日の箇所は、そのパウロの確信、十字架のことばに対する宣言からはじまります。18 節を一緒に読みましょう。

1:18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

みなさんは伝道するとき、「イエス様の十字架を伝えても恐らくこの人は信じてくれないだろうなぁ。」って思ったことはないでしょうか。私はそのように思ったことが何度もあります。特に理屈っぽい男性に伝道しようとする時には、そのように感じることがよくありました。

自分としては、イエス様の十字架の素晴らしさ、そのことに対する感謝、そし

て、その恵みを伝えたいという思いがあるのに、それがなかなかできない。ということをよく感じます。
　だから、この自分が持っている救いの感動を、どうしたら目の前の人にわかりやすく伝えることができるだろうか。自分が感じている喜びを、どうしたらこの人に伝えることができるだろうか。そういうことをいつも考え、焦りとも言えるような思いに支配される時があります。なぜでしょう？　それはキリストの十字架に対する私達が持っている感動と、この世の多くの人たちがもっている十字架に対する感想の間には大きな隔たりがあるからです。
　だから、パウロは十字架のことばは、今現在、滅びに向かって進んでいる人たちには愚かとされていても、同じように今現在、【主】にあって救われる者とされてた信仰者には神の力だといっています。
　みなさん、この世の人を二種類に分けるとしたら、キリストの十字架を愚かだと感じる人と、神の力、神の奇跡、神の救いだと感じる人の二種類しかないのです。

２）十字架のことばに対する感じ方の違いがある理由
　なぜこのような状況になってしまっているのでしょうか。
　パウロはイザヤ書 29 章 14 節を引用しながらこのように言っています。

1:19 「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。

　ここにある「わたし」とは、【主】なる神様のことです。
　世の中にイエス様の十字架の福音を愚かな話と受け取る人と、神様の救いの御業として受け取る人の 2 種類に分かれるのは、神様がこの世の知恵や悟りを無力なもの、役に立たないものにされたからなのです。だから、パウロはいいます 20 節

1:20 知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

ここでパウロは「知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。」と質問しています。これは言葉通りに知恵ある人たちがいる場所を質問しているのではなく、【主】イエスキリストの十字架の贖いとその意味を解き明かすことができるこの世の知恵を持っている人たちがど

こにいるのか？　という質問です。

みなさん、この世の知恵によってイエス様の十字架の意味を解説出来る人がどこにいるでしょうか。どんなに最先端の科学知識を用いたとしても、イエス様の十字架の意味を解き明かすことはできません。どんなに優れた学校の先生であったとしても、イエス様の十字架をこの世の理屈で教えることができる人はいません。そして、どんなに言葉が上手な人、説得力のある言葉を使える人であったとしても、その話術だけでイエス様の十字架の意味を説明できる人はいません。

みなさん、神様はこの世の知恵によってイエス様の十字架を説明できるようにはされていないのです。むしろ、この世の知恵はイエス様の十字架に対しては無力なもの、役にたたないものにされたのです。

だから、この世の人たちは、この世の知恵によってイエス様の十字架を理解することはできません。

実際に、パウロが宣教をしていた当時も、多くの人たちがイエス様の十字架を信じるキリスト者たちを馬鹿にしていました。

みなさん、この写真の絵（図 1）をみてください。みなさん、この写真の絵はどのような絵に見えますか？　わかりにくいですね。

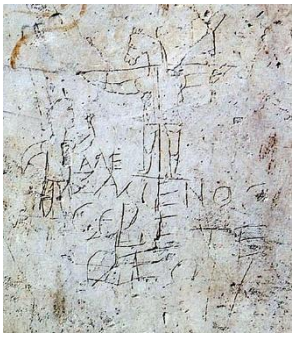

図 1

図 2

この絵をわかりやすく略図にするとこうなります（図２）。この絵のタイトルは「**アレクサメノス　神を拝む**」です。この絵を描いた人にとって十字架につけられたキリストを礼拝するキリスト教徒たちは、ロバの神を拝むアレクサメノスのように滑稽で愚かな存在にみえたのです。

今だって、キリストを信じることに限らず、神様を信じること自体が愚かなことであり、十字架で死んだイエスが三日目に蘇った救い主として信じるなんて馬鹿げているという人は多くいます。

でも、この世の人たちが、私達の信仰を愚かなものだと思ってしまうのは、【主】なる神様ご自身が、十字架の救いをこの世の知恵では理解できないようにされたからなのです。だから、パウロは 21 節のように言っています。

1:21 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんで

した。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。

　みなさん、救われる者に、この世としては愚かと思えるような十字架の救いを、あえてそのまま信じさせるというのは、神様の知恵なのです。
　有名な哲学者であり、キリスト教徒であったキルケゴールという人はこのように言っています。

「キリスト教には大きな躓きがある。もしもキリスト教が十字架と復活を言わなかったならば、よい教えだと多くの人が集まってくるかもしれない。けれども、そこには救いはない。キリスト教の救いというのは、この躓きの前に人間が粉々にされて、謙虚になって、その躓きを信じることによって乗り越えさせて頂く。分かることによって乗り越えるのではない。粉々に打ち砕かれて、自分とはなんと無知な者なのかということがわかって、信じることによって、この躓きは乗り越えられるのだ。」

　哲学者という人生について深く考える専門家自身が、「**救いは、十字架と復活を理解することではなく、十字架と復活によって打ち砕かれて、謙虚にそのまま信じることによって与えられる**」と言っています。私もその通りだと思います。
　この世の人が「キリストがすべての人の罪を背負って死んだなんて、何を言っているんだ。ましてや、そのキリストが三日目に蘇ったなんて、ありえるわけがない」と言ったとしても、この十字架と復活をそのまんま信じる者が救われるのです。
　神様は、あえてこのようにされたのです。なぜでしょうか？　人の知恵や力ではなく、ただ【主】の主権によって、人が救われるようにするためです。

３）当時の人たちの反応とパウロたちの宣教
　だから、この神様のやり方に対する当時の人たちの反応はどうだったかというと22節にあるように、ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を追求していました。「ユダヤ人たちがもとめていたしるし」というのは、わかりやすい奇跡です。マタイの福音書にも律法学者やパリサイ人たちが、イエス様にしるしを求めたことが書かれています（マタイ 12：38-40）。そして、その時のイエス様の回答は「ヨナのしるし以外は与えられません」という回答でした。ヨナのしるしというのは、イエス様が十字架で死なれ、三日目に蘇るということです。つまり、十字架と復活

以外、人々が救われるためのしるしや奇跡は与えられていないのです。
　そして、ギリシア人たちが求めていた知恵というのは、哲学者たちが語っていたような理屈です。これに対しても、先程いったように神様は人の知恵ではイエス様の十字架のことがわからないようにされています。
　だから、パウロはどうしたのかというと 23 節前半

1:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。

パウロは、哲学者たちのようにあれこれ理屈を述べるのではなく、マジックショーのマジシャンのように人々に見せつけるための奇跡を行ったのでもなく、単純に十字架につけられたキリストを宣べ伝えたのです。
イエスキリストの十字架は、この世の人たちである当時のユダヤ人や異邦人には理解できない躓きや、愚かな話とされていました。
じゃぁ、キリストの十字架を理解できない人たち、この世の人たちであるユダヤ人やギリシア人は救われないのかというとそうではありません。
パウロは確信をもって 24 節のようにいっています。

1:24 ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。

みなさん、これが大切です。十字架につけられたキリストは、この世の人たちにとっては躓きとなったり、愚かな話として馬鹿にされたりします。でも、神様に召された人たちにとっては、神の力であり、神の知恵なのです。
大切なのは【主】の召しです。滅びに向かっている人、キリストを愚かとしている人であったとしても、【主】の召しがあれば、キリストを神の力、神の知恵と受け入れることができるのです。

　だから、キリストの十字架という救いを、何度でも、どんなに馬鹿にされても、シンプルに語り続けていけばよいのです。
　みなさん、4 月にはイースターがありました。教会ではイースターにはキリストの十字架と復活を語り、クリスマスにはキリストの誕生を語ります。ある意味では毎年毎年同じことを語り続けています。悪い言い方をすると馬鹿の一つ覚えのように同じことを語り続けます。
　でも、それでいいのです。どんなにこの世の人たちからみると愚かに見えたとし

ても、【主】の召しがあるのならば、キリストは、そして、キリストの十字架は神の力、神の知恵としてその人の中に働いてくださるからです。
　それが神様の知恵であり、神様の計画なのです。

４）人の知恵より、神の知恵に従う理由
　みなさん、みなさんの中には、証しや伝道するとき、上手に話さなければいけない。わかりやすく話さなければいけない。というプレッシャーを感じている人がおられるかもしれません。
　もしくは、どうせ話しても聞いてもらえないと思って、証しすること、伝道すること自体を諦めてしまっている人もいるかもしれません。
　でも、この世の人たちがキリストの十字架を理解できず、馬鹿にしたり、愚かな話だと思ってしまうことこそが、神様の知恵なのです。【主】は、あえてこの世の知恵ではキリストとキリストの十字架を理解できないようにされました。
　だから、私達は人々に理解されないことを分かった上で、純粋にキリストの十字架を語り、証しをし続けていけばいいのです。
　なぜならば、あえてこの世の知恵では理解できないようにするという、神様の愚かさは、この世の人の賢さよりも賢い知恵だからです。
　みなさん、25 節を一緒にお読みしましょう。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

　みなさん、神様の知恵とこの世の知恵を比べたらどちらが優れているでしょう。当然、神様の知恵ですね。でも、パウロは「神の知恵は人よりも賢い」とは言わず、「神の愚かさは人よりも賢い」と言いました。私達と神様の間にはそれほど圧倒的な差があるということです。そして、それは力においても同じです。
　どんなにこの世の人が神様には力がなく、無力だと思ったとしても、神様の弱いところさえ、人よりも強いのです。
　だから、その神様が、その人を召し出し、救い出すと決められたのならば、
　どんなに私達が伝道するときに使うことばが、この世の人たちにとって愚かに感じられたとしても、【主】に召されたその人は必ず救われるのです。

結論）
　ですからみなさん、上手に話せないとか、どうせ話しても無駄だとか。思ったとしても、心配しないで純粋にキリストの十字架をかたっていきましょう。

この世の人たちが、この世の理屈でキリストの十字架を理解できないのは当たり前なのです。それこそが、人ではなく、神様の力によってのみ救われるようにされている神様の知恵なのです。

だから、私達はその神様の知恵と神様の力を信じて、単純にキリストを証しし続けましょう。【主】は必ず、救われるべき人を救ってくださり、キリストの十字架の力と知恵をその人に理解させてくださいます。自分の力ではなく、この【主】の力を信じて、私達もパウロと同じように宣教をし続けていきたいと思います。